「石綿含有建材有無に関する事前調査等結果報告書モデル書式」の使い方

 2024年4月1日

一般社団法人ＪＡＴＩ協会

1. 報告書の構成

報告書は、下記３部で構成されている。

1. 表紙･･･「石綿含有建材有無に関する事前調査等結果報告書」

・提出先、調査対象および調査結果の概要を記載したもの。

1. 調査詳細部･･･「石綿含有建材有無に関する事前調査等結果報告書　詳細表」

　　　　・書面調査、目視調査、石綿分析結果を詳細に記述した資料。（１）で報告した

事項の裏付けとなるもので必ず添付が必要。

1. 添付資料･･･表紙、詳細表以外に報告資料として必要な書類の事。

　　　　・石綿分析結果報告書「石綿障害予防規則第３条に基づく事前調査における石綿

分析結果報告書（証明書）」

　　　　・データベース資料「石綿（アスベスト）含有建材データベース」

国土交通省・経済産業省

　　　　・各メーカーや工業会のホームページ資料　　　　等

1. 報告書（表紙）の記入要領

|  |  |
| --- | --- |
| 項目 | 記入要領 |
| 調査の種類 | その他の調査は、石綿則第３条、大防法１８条の１５以外の調査で、事例として不動産取引に関連した調査、居住者・使用者の依頼による調査等がある。 |
| 調査依頼者 | 石綿調査を依頼した氏名及び法人名を記載。 |
| 調査者 | 石綿調査を行った建築物石綿含有建材調査者の氏名・登録番号を記載。 |
| 分析者 | 石綿分析を行った分析者の資格名・登録番号・氏名を記載。 |
| 対象物件概要 | この欄の記載事項は、「石綿含有建材有無に関する事前調査等結果報告書 詳細表」上段の対象物件欄と整合させる。 |
| 建物構造 | ・Ｓ造：鉄骨構造の略称。柱や梁が鉄骨（鋼材）で出来ている建築構造。・ＳＲＣ造：鉄骨鉄筋コンクリート造の略称。鉄骨の周囲に鉄筋を配しコンクリートを流し込んだ建築構造で高層建築物に用いられる。・ＲＣ造：鉄筋コンクリートの略称。Ｓ造では鉄骨の表面に耐火被覆を目的とした吹付け材や耐火被覆板が施工されているので、天井裏などの調査が必要。ＲＣ造、ＳＲＣ造のコンクリート表面には耐火被覆ではなく、吸音や結露防止を目的とした吹付け材や仕上げ材が施工されている場合がある。 |
| 調査に係るヒアリング先 | 建物管理者やメンテ作業員等調査対象建物に詳しい人からのヒアリングを行った際の情報源を明確にしておく事。 |
| 調査対象材料調査方法 | 調査を依頼された際に、依頼者の調査に対する要求範囲がどのレベルまでなのか、またそのレベルにおいて、書面調査で終了か、目視調査、分析調査まで行う必要があるのかを確認し、その確認結果に該当する項目を〇で囲む。 |
| 調査結果の概要 | 依頼内容に対する調査結果をダイジェストで説明。レベル毎に記載したり、石綿含有建材の製品名を記載したり、石綿含有建材が無い事を記載したり多種多様であるが、特に重要事項（調査出来なかった部位や部屋・対策が必要な劣化状態・使用している配管のガスケットなどサンプリングできない部位等）である項目はもれなく記載。また判断根拠も記載 |
| ２．レベル１　　　　～６．レベル外 | 「２．～３．」には、レベル１，２があった階・部屋名、部位、建材・材料名を、「４．」には、レベル３について階・部屋別に、床、巾木、壁、天井部位に建材・材料名を記載。石綿含有建材が「有」の場合のみ記載し、判断根拠も記載。「５．」には、石綿含有仕上塗材について下地調整材も含め、階、部屋名、部位、建材・材料名を、「６．」には、レベル分け出来ない、「その他の石綿含有製品」が見つかった場合に記載する。また判断根拠も記載。 |

1. 詳細表の記入要領

|  |  |
| --- | --- |
| 全般 | 構造体のシートと各階・部屋毎のシートを作成する。それぞれ１ページを超えた分は２枚目のシートを用いる。構造体のシートは、梁・柱・外壁など建築物全体に構成する建材に石綿含有建材が使用されているか確認し、石綿の有無を記載。各階・各部屋のシートは、床・巾木・壁・天井と網羅的に目視調査を行ったことを証するために、石綿の有る無しに関わらず書き出す。石綿が含有されている部位だけ記載することはＮＧ。 |
| 階数部屋名①部位 | 目視調査を想定した順序で記載。設計図書に部屋名の記載がない場合は適宜「事務室－１」「階段室－東」「廊下－南」などの名称を付けるとよい。部位はそれぞれの部屋毎に天井・巾木・壁・天井の順に使用材料を書き出す。 |
| **書面調査**②建材・材料名③メーカー名 | 設計図書に製品名が記載されている場合は、建材・材料名及びメーカー名を調べ記載する。建材・材料名のみの場合は、メーカー名は空欄とし、その他の事項がある場合には、③欄に記載。 |
| 石綿の有無 | 対象建材の石綿の有り・無し・不明を記載。 |
| ④判断根拠⑤添付資料 | 対象建材を石綿が有り・無しと判断した根拠を脚注④から選択し記号を記載。ここでｂ.及びｄ.を選択した場合は、添付資料欄に該当資料を添付しその資料番号を記載。 |
| **目視調査**⑥整合性確認 | 各部屋・各部位の整合性の確認を行い、書面と現地の整合が取れればレを記載し、不整合の場合には、×を記載。 |
| ⑦現地確認事項 | 脚注⑦の例示の様に、現場での気づき事項があった場合はその内容を記載。 |
| ⑧建材・材料名 | ⑥整合性の確認で不整合の場合目視調査で確認した建材・材料名を記載。 |
| ⑨写真番号⑩試料番号⑪採取位置 | 目視調査にて、現地確認事項や各部屋各部位の写真を撮影し写真番号欄に写真番号を記載。分析の為のサンプリングを行った場合には、試料採取番号と試料採取位置を記載。 |
| **結果**⑫判断根拠 | 目視調査を経て最終的な石綿含有判断を行った根拠を脚注④から選択し記載。 |
| ⑬添付資料 | 判断根拠の裏付けとなる資料（分析報告書№、メーカー・工業会ＨＰ等）に番号を付けその番号を記載。 |
| 石綿の有無⑭石綿の種類⑮レベル | 石綿含有の有無及び不明の最終判断を記載し、対象建材が石綿含有建材の場合、その石綿の種類とレベルを記載。 |